日本タングステン株式会社

第96期 報告書

平成18年4月1日～平成19年3月31日

意 Style

【KOKORO】

九州の夜景【vol.3】

熊本城築城400年祭

日本三名城のひとつに数えられる熊本城は今年、築城よりちょうど400年を迎えます。その節目を祝う盛大なイベント「熊本城築城400年祭」が現在開催されており、季節毎にさまざまな催しが行われています。その壮麗な姿を浮かび上がらせる夜間ライトアップにも日本タングステンの技術が活かされています。

日本タングステンの技術が街の灯りを支えています。

目次

1.株主の皆さまへ……01
2.事業の状況……03
3.財務ハイライト……04
4.計算書類……05
5.Business news……09
6.タングステンのすべて……11
7.会社の概要……13
8.企業結合の状況……13
9.株式の状況……14

1.株主の皆さまへ

ごあいさつ

株主の皆さまには、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。

当社は、タングステン製品の製造・販売会社として、1931年（昭和6年）に創立以来、今日まで長年培ってまいりました粉末冶金技術をベースにファイン＆レアーマテリアル商品のパイオニアとして、電気、電子、機械など多くの産業分野でご愛顧いただいてまいりました。

ひとえに皆さま方の長年に亘るご支援、ご愛顧の賜物と深く感謝申し上げます。

これからも当社の経営理念である“創意”、“誠意”、“熱意”の3つの意を基にして、皆さま方のご期待にお応えできますよう真摯に努力してまいる所存でございます。

ここに、第96期（平成18年4月1日から平成19年3月31日まで）報告書をお届けするにあたりまして、事業の概況についてご報告申し上げます。

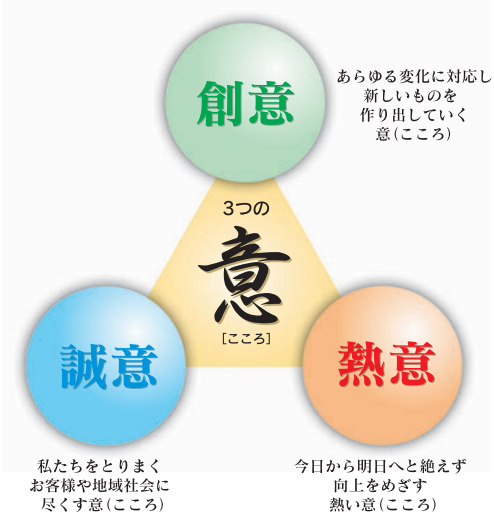
株主の皆さまにおかれましては、今後とも格別のご理解、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成19年6月

取締役社長　吉田省三

当社は、タングステンの粉末冶金技術をベースに
独自の製品開発力と加工技術を駆使し、

**次世代マテリアルのパイオニアとして
事業の発展に取り組んでまいります。**



この私たちの3つの意（こころ）をもとに、
株主、顧客、地域社会と相互に協調し、

**自然環境との調和をはかりつつ、
一層の発展をめざします。**

2.事業の状況

(1)事業の経過およびその成果

当連結会計年度におけるわが国経済は、企業収益が好調に推移するとともに、堅調な設備投資、雇用環境の改善による個人消費の回復にも支えられ、いざなぎ景気を越える長期の景気拡大が続くなかで推移いたしました。

当社グループの関連する業界につきましては、原材料価格の高騰が続くなか、液晶・半導体関連、自動車関連の好調な需要により堅調に推移いたしました。

このような状況の中、当社グループにおきましては、さらなる販売力の強化、強靭な経営体質の構築、新商品の早期立ち上げ、内部統制システムの構築を年度方針とし、また創立75周年の節目の年度として、さらなる業績の向上に取り組んでまいりました。この結果、売上高は前年比4.3%増の129億4百万円となりました。

利益面につきましては、タングステン、銀材料などの主要原材料価格の高騰が続き、材料費が増加いたしましたが、売上増による操業利益、生産性の向上等により、経常利益は前年比20.3%増の11億7千2百万円となり、また、当期純利益は前年比30.3%増の7億1百万円となりました。

(2)セグメント別の状況

■ 粉末冶金事業

当社グループの主要事業であります粉末冶金事業は、電気関連製品の重電・ブレーカー用接点が中国など海外向けの変電設備や国内向けの生産ラインの新設等により増加し、抵抗溶接用電極も自動車市場向けが好調に推移いたしました。その他の電気関連では、液晶関連部材用のタングステン・モリブデン棒製品が一部材質変更や在庫調整の影響もあり減少いたしました。

電子関連製品は、ＨＤＤ用磁気ヘッド基板がデジタル情報家電向けに搭載が拡大しているものの、ヘッドの小型化やＨＤＤメーカーの再編の影響で伸び悩みました。一方、超精密加工品は、一眼レフデジタルカメラ市場の成長により好調に推移したほか、携帯電話用の受注が増加し伸張いたしました。

機械関連製品では、主力製品のＮＴダイカッターが国内向けは増加したものの、海外市場の受注が低調で減少いたしました。一方、電子部品、自動車関連向けの切削工具の需要が好調に推移いたしました。

この結果、粉末冶金事業の売上高は前年比4.5%増の122億1千7百万円となりました。

■ 産業用機器事業

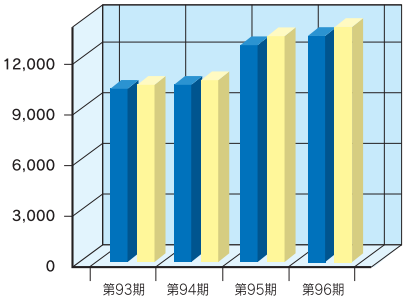
産業用機器事業は、半導体関連の製造用部品および装置関係が堅調に推移いたしました。この結果、産業用機器事業の売上高は前年比10.3%増の6億1千2百万円となりました。

■ その他事業

その他事業は、開発品の一部を製造工程へ移管したこと等により、売上高は前年比37.7%減の7千4百万円となりました。

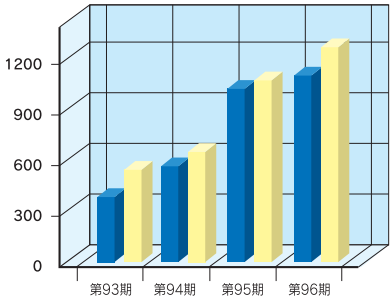
3.財務ハイライト

売上高（百万円）



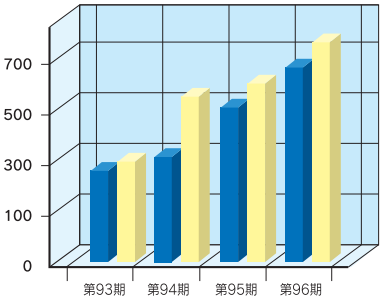
	第93期	第94期	第95期	第96期
単独	9,673	10,366	11,866	12,363
連結	10,036	10,723	12,368	12,904

経常利益（百万円）



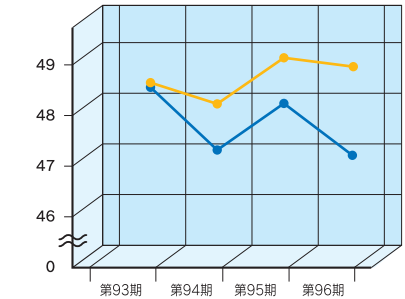
	第93期	第94期	第95期	第96期
単独	378	466	923	1,074
連結	445	550	974	1,172

当期純利益（百万円）



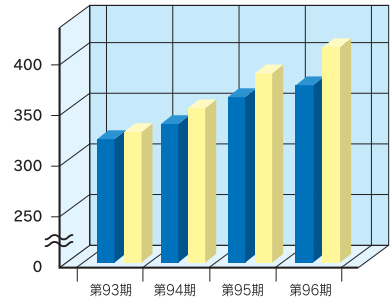
	第93期	第94期	第95期	第96期
単独	188	246	441	598
連結	229	486	538	701

自己資本比率（%）



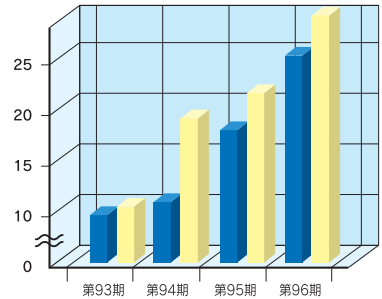
	第93期	第94期	第95期	第96期
単独	48.2	46.9	47.7	46.7
連結	48.3	47.8	48.7	48.5

1株当たり純資産額（円）



	第93期	第94期	第95期	第96期
単独	307.0	318.8	348.1	361.4
連結	314.1	335.5	371.0	392.5

1株当たり当期純利益（円）



	第93期	第94期	第95期	第96期
単独	6.1	8.5	16.2	23.7
連結	7.6	17.6	20.0	27.8

4.計算書類

連結決算

表示金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結貸借対照表

平成19年3月31日現在

（百万円）

科目	金額
（資産の部）	
流動資産	9,817
現金及び預金	1,919
受取手形及び売掛金	4,830
たな卸資産	2,661
繰延税金資産	336
その他	71
貸倒引当金	△1
固定資産	10,400
有形固定資産	7,402
建物及び構築物	5,116
機械装置及び運搬具	1,619
工具器具及び備品	166
土地	305
建設仮勘定	194
無形固定資産	20
ソフトウェア	20
その他	0
投資その他の資産	2,977
投資有価証券	2,695
その他	361
貸倒引当金	△79
資産合計	20,218

（百万円）

科目	金額
（負債の部）	
流動負債	5,850
支払手形及び買掛金	1,336
短期借入金	2,719
未払法人税等	347
賞与引当金	586
役員賞与引当金	37
その他	823
固定負債	4,552
長期借入金	2,068
繰延税金負債	1,028
退職給付引当金	839
その他	616
負債合計	10,402
（純資産の部）	
株主資本	8,798
資本金	2,509
資本剰余金	2,229
利益剰余金	4,748
自己株式	△689
評価・換算差額等	1,017
その他有価証券評価差額金	1,055
為替換算調整勘定	△38
純資産合計	9,815
負債・純資産合計	20,218

（注）有形固定資産の減価償却累計額　14,344百万円

当連結会計年度末における総資産は、売上債権及びたな卸資産等が増加し、前年同期末比9億3千8百万円増の202億1千8百万円となりました。

負債は、仕入債務、未払法人税等が増加したため、前年同期末比5億1千4百万円増の104億2百万円となりました。

純資産は、利益剰余金の増加等により、前年同期末比4億2千3百万円増の98億1千5百万円となりました。

連結損益計算書

平成18年4月1日から
平成19年3月31日まで

（百万円）

科目	金額	
売上高		12,904
売上原価		9,597
売上総利益		3,306
販売費及び一般管理費		2,096
営業利益		1,210
営業外収益		
受取利息及び配当金	28	
その他	242	270
営業外費用		
支払利息	63	
その他	245	308
経常利益		1,172
特別利益		
貸倒引当金戻入益	5	5
税金等調整前当期純利益		1,177
法人税、住民税及び事業税	396	
法人税等調整額	79	476
当期純利益		701

連結キャッシュ・フローの状況

（百万円）

営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期末残高
841	△536	△66	1,919

連結株主資本等変動計算書

平成18年4月1日から
平成19年3月31日まで

（百万円）

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
平成18年3月31日残高	2,509	2,229	4,282	△612	8,408
連結会計年度中の変動額					
剰余金の配当(注)			△126		△126
剰余金の配当			△75		△75
役員賞与（注）			△33		△33
当期純利益			701		701
自己株式の取得				△76	△76
株式資本以外の項目の連結会計年度中の変動額(純額)					
連結会計年度中の変動額合計	—	—	466	△76	389
平成19年3月31日残高	2,509	2,229	4,748	△689	8,798

（百万円）

	評価・換算差額等			純資産合計
	その他有価証券評価差額金	為替換算調整勘定	評価・換算差額等合計	
平成18年3月31日残高	1,118	△135	983	9,392
連結会計年度中の変動額				
剰余金の配当(注)				△126
剰余金の配当				△75
役員賞与（注）				△33
当期純利益				701
自己株式の取得				△76
株式資本以外の項目の連結会計年度中の変動額(純額)	△63	96	33	33
連結会計年度中の変動額合計	△63	96	33	423
平成19年3月31日残高	1,055	△38	1,017	9,815

（注）平成18年6月の定時株主総会における利益処分項目であります。

単独決算

表示金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

貸借対照表

平成19年3月31日現在

（百万円）

科目	金額
（資産の部）	
流動資産	9,408
現金及び預金	1,682
受取手形	1,317
売掛金	3,440
製品及び商品	164
原材料	927
仕掛品	1,423
貯蔵品	21
前払費用	11
繰延税金資産	332
未収入金	45
その他	42
貸倒引当金	△0
固定資産	9,945
有形固定資産	7,266
建物	4,862
構築物	239
機械及び装置	1,511
車両及び運搬具	2
工具器具及び備品	156
土地	299
建設仮勘定	194
無形固定資産	20
ソフトウェア	20
その他	0
投資その他の資産	2,658
投資有価証券	2,161
関係会社株式	87
関係会社出資金	261
関係会社長期貸付金	155
その他	72
貸倒引当金	△79
資産合計	19,353

（注）有形固定資産の減価償却累計額　13,862百万円

（百万円）

科目	金額
（負債の部）	
流動負債	5,762
支払手形	109
買掛金	1,211
短期借入金	2,080
長期借入金（1年内返済）	639
未払金	331
未払費用	279
未払法人税等	344
未払消費税等	45
賞与引当金	560
役員賞与引当金	37
預り金	74
その他	50
固定負債	4,551
長期借入金	2,068
繰延税金負債	1,033
退職給付引当金	839
長期預り金	406
預り保証金	20
その他	183
負債合計	10,313
（純資産の部）	
株主資本	7,988
資本金	2,509
資本剰余金	2,229
資本準備金	2,229
利益剰余金	3,938
その他利益剰余金	3,938
買換資産圧縮積立金	1,105
別途積立金	1,000
繰越利益剰余金	1,833
自己株式	△689
評価・換算差額等	1,051
その他有価証券評価差額金	1,051
純資産合計	9,039
負債・純資産合計	19,353

損益計算書

平成18年4月1日から
平成19年3月31日まで

（百万円）

科目	金額	
売上高		12,363
売上原価		9,263
売上総利益		3,099
販売費及び一般管理費		1,972
営業利益		1,127
営業外収益		
受取利息及び配当金	91	
その他	186	277
営業外費用		
支払利息	63	
その他	266	330
経常利益		1,074
特別利益		
貸倒引当金戻入益	5	5
税引前当期純利益		1,079
法人税、住民税及び事業税	394	
法人税等調整額	86	480
当期純利益		598

株主資本等変動計算書

平成18年4月1日から
平成19年3月31日まで

（百万円）

	株主資本					
	資本金	資本剰余金	利益剰余金			
		資本準備金	その他利益剰余金			利益剰余金合計
			買換資産圧縮積立金	別途積立金	繰越利益剰余金	
平成18年3月31日残高	2,509	2,229	1,216	1,000	1,358	3,574
事業年度中の変動額						
買換資産圧縮積立金の取崩(注)			△54		54	—
買換資産圧縮積立金の取崩			△56		56	—
剰余金の配当（注）					△126	△126
剰余金の配当					△75	△75
役員賞与（注）					△33	△33
当期純利益					598	598
自己株式の取得						
株主資本以外の項目の事業年度中の変動額(純額)						
事業年度中の変動額合計	—	—	△110	—	474	363
平成19年3月31日残高	2,509	2,229	1,105	1,000	1,833	3,938

（百万円）

	株主資本		評価・換算差額等	純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	
平成18年3月31日残高	△612	7,701	1,112	8,813
事業年度中の変動額				
買換資産圧縮積立金の取崩(注)		—		—
買換資産圧縮積立金の取崩		—		—
剰余金の配当（注）		△126		△126
剰余金の配当		△75		△75
役員賞与（注）		△33		△33
当期純利益		598		598
自己株式の取得	△76	△76		△76
株主資本以外の項目の事業年度中の変動額(純額)			△60	△60
事業年度中の変動額合計	△76	287	△60	226
平成19年3月31日残高	△689	7,988	1,051	9,039

（注）平成18年6月の定時株主総会における利益処分項目であります。

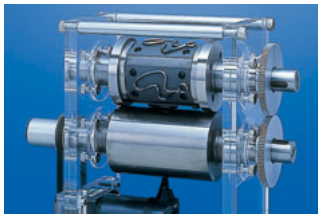
5.Business news　主力商品のご紹介

NTダイカッター

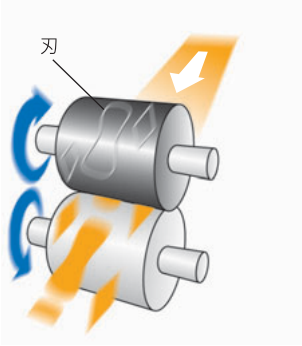
紙･不織布などの輪郭を高速･高精度で切断する当社独自の超硬合金製ロータリーカッターです。

主に紙おむつや生理用品の不織布切断･輪郭加工に使用されています。従来のダイス鋼などの鉄系材料と比較すると、切れ味が鋭く、かつ耐摩耗性に優れているため、その寿命は従来品と比較して10倍まで飛躍的に改善されました。

高速加工ができ、良好な切断特性を持つ、「NTダイカッター」（特許取得済み）は多くのお客様から高い信頼を得ております。



NTダイカッター

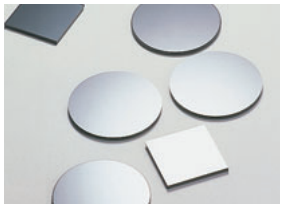


切断の様子

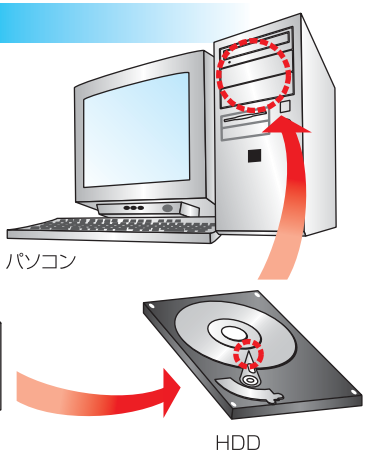
磁気ヘッド基板

HDD（ハードディスクドライブ）用磁気ヘッドの主要材料であるセラミックス基板を製造販売しており、世界シェアの60％を超えております。最近はデジタルカメラやブロードバンドの普及により、画像や動画を記録することが多くなり、ＨＤＤの記録容量も急激に増加しております。

一方、記録密度も技術革新により飛躍的に向上し、磁気ヘッドの小型化や歩留向上、また他の記憶媒体のメモリー増量などもありますが、他のメモリー媒体との棲み分けも行われ、サーバー、パソコン、HDDビデオレコーダー、カーナビゲーションなどへの搭載が進んでおり、記憶容量大規模化のニーズに貢献しています。



磁気ヘッド基板



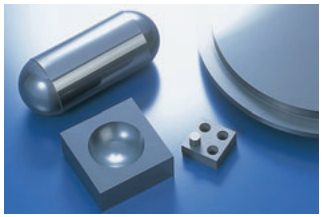
Business news

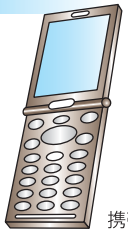
超精密モールド

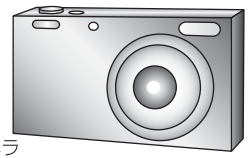
超精密モールドは当社のセラミックスや超硬合金を用い、μ（ミクロン：１μｍ＝千分の１ミリメートル）オーダーでの加工を施した商品です。表面は鏡面仕上げで曇りも見られない平滑性を有した仕上がりとなっています。

また、材料自体も他の材料との反応性を少なくし、微小の欠陥（傷や粒の脱落）がない完全に焼結させる技術がこの商品の生命線ですが、当社は普通焼結のほか、ホットプレスやHIP（ホット・アイソスタティック・プレス：熱間静水圧加圧）処理などの技術も有しており、高品位材料の製造を得意としております。

現在は特に精度を求められるデジタルカメラなどの光学関連分野でご使用いただいております。


超精密モールド


携帯電話

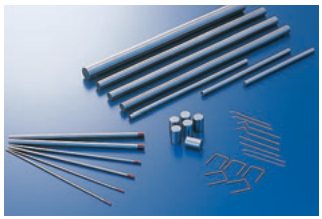

デジタルカメラ

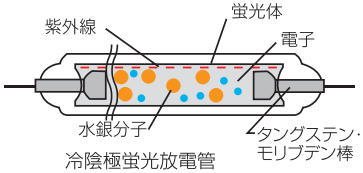
液晶バックライト用部品

液晶ディスプレイのバックライトとして使用される冷陰極蛍光放電管（ＣＣＦＬ＝Cold Cathode Fluorescent Lamp）の部品としてタングステン、モリブデン棒製品が使われております。

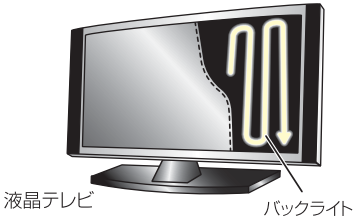
従来、液晶静止画像においては放電管の部品はニッケルなどの材質が使用されておりましたが、動画対応に要求される仕様に合った耐久性の高い材料としてタングステンやモリブデンが使用され始めました。

特に、ここ2、3年で大型の薄型液晶テレビが急速に普及し、需要が増加しており、本部品は高信頼・高品位の商品としてご利用いただいております。


タングステン棒



冷陰極蛍光放電管



6. タングステンのすべて

タングステンをより知っていただくために、このシリーズで分かりやすくご紹介していきます。

Vol.3

タングステン製造レポート［精製～焼結編］
日本タングステン・飯塚工場を訪ねて

独自の技術と原産地・中国との密接な関係から生み出される日本タングステンの製品の数々。その現場である飯塚工場と高い技術のもとで行われる精製・還元・焼結工程をご紹介します。

日本タングステンは、福岡県飯塚市・宇美町、佐賀県基山町に製造工場を持ち、飯塚工場は昭和45年の開設。タングステンを主とする金属加工生産を行っています。採掘されたタングステン鉱石が製品としてのタングステンになるためには、精製、還元、混合、成形、焼結、加工といった工程を経なければなりません。今回はその中でも特に「精製・還元」について詳しく触れてみたいと思います。

品質保証部主幹・飯塚品質管理グループリーダーの伊藤博

中国から輸入したAPTを製品に

まず、タングステンの生産過程は高純度に精製された原料粉末から始まります。これはパラタングステン酸アンモニウム（APT）といわれるもので、中国で製造した粉末を輸入しています。世界のタングステンの83％を産出する中国ですが、かつての精製技術は低いものでした。しかし、「現在は、当社を含めた海外の技術導入により、高い基準をクリアする原料粉末を生産しています」（品質保証部主幹・飯塚品質管理グループリーダーの伊藤博）。
文化や価値観の異なる中国の地でさまざまな問題を乗り越え、解決し、辿り着いた成果です。

APT→BO→W（タングステン）と純化する工程

飯塚工場に送られてきたAPTは白いパウダー状。そのきめの細かさは、高純度精製の賜物です。ただし、これでも純度はまだまだ。本格的な工程はこれからです。

まず、APTは加熱分解されて青色

白いパウダー状のAPT
（パラタングステン酸アンモニウム）

APTを加熱分解した青色粉末の
BO（ブルーオキサイド）

粉末のBO（ブルーオキサイド）になります。BOはアルミニウム・カリウム・シリコンの溶液調合したものをドーピング（添加）し、さらに高圧力による成型、通電による特殊焼結を経て、緻密なタングステンインゴットになります。このタングステンインゴットが、タングステンの線や棒製品になっていくのです。この過程での、粉末調合調整技術・特殊焼結技術は日本タングステンが長年培ってきたものです。

数々の精製過程を経て
得られる黒色粉末のW（タングステン）

99.999%という高純度製品も

飯塚工場では、プロジェクターのランプなどに利用される99.999%という高純度のタングステン粉も製造しています。また、APTを加熱分解した黄色粉末のWO_3（三酸化タングステン）も製造しており、これは光学ガラスや触媒、試薬、セラミック製造用原料などに利用されます。

鮮やかな黄色の粉末のWO_3
（三酸化タングステン）

花粉の十分の一以下という超微粉末のきめ細かな美しさ、そして鮮やかな発色。APTの白、BOの青、WO_3の黄色は、飯塚工場のシンボルカラーと言えるかもしれません。

タングステン粉末の
製造が行われる
飯塚工場内部の様子

7.会社の概要（平成19年3月31日現在）

■設　　立　　1931年（昭和6年）4月1日
■資 本 金　　25億950万円
■従業員数　　541名（単体478名）
■本　　社　　福岡市博多区美野島一丁目2番8号
■事 業 所　　東京支店、名古屋支店、大阪支店、福岡支店、基山工場、飯塚工場、宇美工場
■役　　員　　（平成19年6月28日現在）

取締役社長	吉田省三	（代表取締役）
常務取締役	怡土宣彦	
常務取締役	高尾幸生	
取締役	石松茂	
取締役	坂口茂也	
取締役	大久保十三夫	（新任）
取締役	仙場謙次	（新任）
取締役	眞部利應	（新任）九州電力株式会社代表取締役社長
常勤監査役	小川誠	
常勤監査役	谷口文経	（新任）
監査役	片山修造	（新任）九州電力株式会社代表取締役副社長
監査役	江口隆	（新任）株式会社福岡銀行常務執行役員

8.企業結合の状況

■連結子会社

株式会社　昭和電気接点工業所	福岡県飯塚市	電気接点、その他電子部品の製造販売
株式会社　福岡機器製作所	福岡県福岡市	産業用機械装置類の製造販売ならびに修理に関する工事
株式会社　エヌ・ティーサービス	福岡県福岡市	不動産の管理、損害保険・生命保険代理業、商品販売
恩悌（上海）商貿有限公司	中国上海市	タングステン・モリブデンを主とする非金属材料・加工製品、超硬合金、セラミック製品の販売

■持分法適用関連会社

ＳＶニッタン株式会社	タイ国バンコク市	超硬工具および超硬精密製品の製造販売
四平日本タングステン有限公司	中国吉林省	タングステン・モリブデン製品、合金材料の製造販売
九江日本タングステン有限公司	中国江西省	タングステン・モリブデン製品、合金材料の製造販売
上海電科電工材料有限公司	中国上海市	電気接点製品の製造販売
上海三義精密模具有限公司	中国上海市	精密金型、プレス部品、射出成型品、半導体製造設備および自動化設備の製造販売

9.株式の状況（平成19年3月31日現在）

■発行可能株式総数　100,000,000株

■発行済株式の総数　27,777,600株

■単元株式数　1,000株

■株主数　4,085名

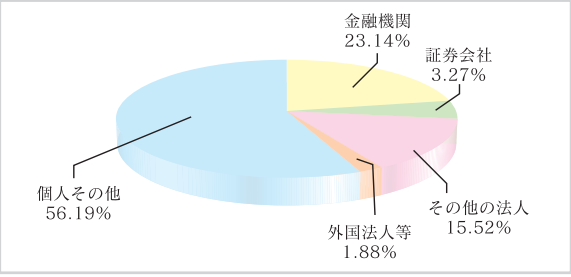
■大株主　（千株、%）

株主名	持株数	出資比率
九州電力株式会社	1,666	6.0
株式会社福岡銀行	1,236	4.4
共栄火災海上保険株式会社	1,117	4.0
みずほ信託銀行株式会社	643	2.3
日本タングステン従業員持株会	606	2.1
明治安田生命保険相互会社	601	2.1
株式会社西日本シティ銀行	509	1.8
株式会社佐賀銀行	500	1.8
株式会社NEOMAX	500	1.8
株式会社三菱東京UFJ銀行	491	1.7

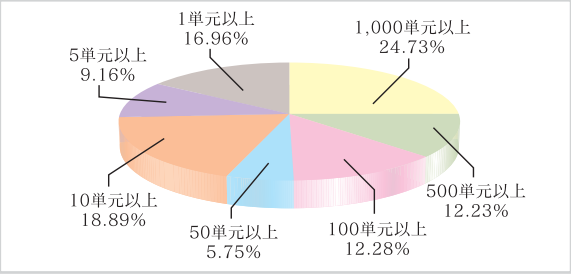
※株式会社NEOMAXは、平成19年4月1日付で合併により、日立金属株式会社となりました。
※持株数は、千株未満を切捨てて表示しております。
※上記のほか、自己株式を2,770千株所有しております。

■株式の分布状況

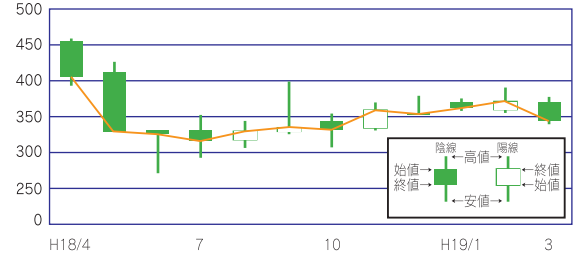
◎所有者別



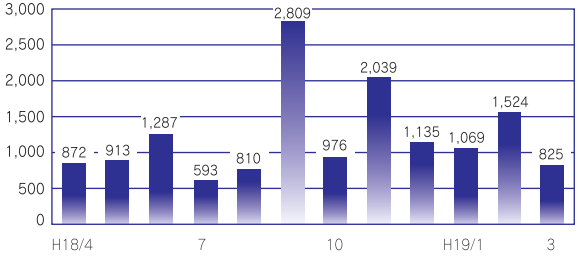
◎所有数別



■株価の推移（円）



■出来高の推移（千株）



株主メモ

決算期	3月31日
基準日	定時株主総会、期末配当金　3月31日 中間配当金　9月30日 そのほか必要あるときは あらかじめ公告して定めます。
定時株主総会	6月
上場証券取引所	東京(2部)、福岡
証券コード	6998
株主名簿管理人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
同取次所	みずほ信託銀行株式会社 全国各支店 みずほインベスターズ証券株式会社 本支店
お問い合わせ先	〒135-8722 東京都江東区佐賀一丁目17番7号 みずほ信託銀行株式会社　証券代行部 電話0120-288-324(フリーダイヤル)
公告方法	当社のホームページ(http://www.nittan.co.jp/)に掲載します。ただし、電子広告によることができない事故その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載します。

ご案内

株式の名義書換、単元未満株式の買取請求、配当金振込銀行の変更などの諸手続きに必要な書類や手続き方法は、下記みずほ信託銀行のホームページ“お手続内容”でご覧いただけます。
http://www.mizuho-tb.co.jp/daikou/

日本タングステン株式会社

本　社　〒812-8538 福岡市博多区美野島一丁目2番8号
TEL(092)415-5500(代表)　FAX(092)415-5511
ホームページアドレス　http://www.nittan.co.jp/

R100 古紙配合率100%再生紙を利用しています
PRINTED WITH SOY INK この報告書は、環境にやさしい大豆インクと再生紙を利用しています。

意Style
【KOKORO】 2007年 6月発行